

# 南多摩保健医療圏 5 市の「ステイホーム」期間における 幼児の口腔内への影響について

東京都南多摩保健所 永坂大地 杉本美沙 舟木素子

## 1 緒言

令和元年 12 月に中華人民共和国武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症は、令和 2 年 1 月 23 日東京都でも一例目が発見された。その後東京都は人流抑制により感染拡大を防ぐため令和 2 年 4 月 25 日から 5 月 6 日まで「ステイホーム週間」として外出自粛を促した。このステイホーム週間に代表されるようにこの後も感染拡大時には不要不急の外出自粛要請が行われた。それに伴い幼稚園保育所の通園控えや歯科受診控えなどが起きた。生活リズムが変わったことにより間食の増加等口腔内に悪影響を与える要因が増え、さらに受診控えのため専門家のアプローチも途絶えてしまった。そこで我々は外出自粛が口腔内にどのような影響を与えたのか、平成 29 年から令和 3 年の「東京の歯科保健」（東京都福祉保健局）のデータをもとに南多摩保健医療圏における 1 歳 6 か月児および 3 歳児の一人当たりむし歯数、う蝕有病者率を比較し、状況を確認したため報告する。

## 2 対象および方法

平成 29 年から令和 3 年に発行された「東京の歯科保健-東京都歯科保健医療関係資料集-」（東京都福祉保健局）を元に南多摩保健医療圏（八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市）で平成 28 年度から令和 2 年度に 1 歳 6 か月児歯科健康診査および 3 歳児歯科健康診査を受診した計 97,546 人の一人当たりむし歯数、う蝕有病者率を確認し外出自粛の影響について確認した。

## 3 結果

表 1～表 4 および図 1～図 4 の通り 1 歳 6 か月児歯科健康診査では、ステイホームが行われた令和 2 年度は前年と比較し一人当たりむし歯数が、多摩市で横ばいであったものの他市は減少した。う蝕有病者率は多摩市がわずかに上昇したが、他市は減少した。3 歳児歯科健康診査では、一人当たりむし歯数が稲城市でわずかに上昇したが他市は減少した。う蝕有病者率は町田市で上昇したが、他市は減少した。

市毎に結果を見てみると八王子市においてはコロナ前と比較し 1 歳 6 か月児歯科健康診査および 3 歳児歯科健康診査における一人当たりむし歯数、う蝕有病者率の値が減少していた。町田市では、3 歳児のう蝕有病者率のみ上昇がみられたが、町田市は令和元年も同様の傾向がみられていた。日野市では、1 歳 6 か月児歯科健康診査および 3 歳児歯科健康診査における一人当たりむし歯数、う蝕有病者率の値が減少していた。多摩

市では、1歳6か月児歯科健康診査においてう蝕有病者率のみ上昇していた。一方3歳児では、一人平均むし歯数、う蝕有病者率ともに減少していた。稲城市では、1歳6か月児歯科健康診査では、両データが減少していたが3歳児歯科健康診査では、一人当たりむし歯数が増加していた。

	H28	H29	H30	R1	R2
八王子市	0.04	0.04	0.03	0.03	0.02
町田市	0.04	0.03	0.03	0.03	0.02
日野市	0.04	0.03	0.01	0.01	0.00
多摩市	0.03	0.03	0.01	0.01	0.01
稲城市	0.03	0.02	0.02	0.02	0.01

表 1

	H28	H29	H30	R1	R2
八王子市	1.3%	1.3%	1.0%	1.1%	0.8%
町田市	1.4%	0.9%	1.1%	1.0%	0.7%
日野市	1.0%	0.9%	0.7%	0.3%	0.2%
多摩市	1.2%	0.9%	0.5%	0.5%	0.8%
稲城市	1.2%	0.8%	0.9%	0.7%	0.3%

表 2

	H28	H29	H30	R1	R2
八王子市	0.40	0.34	0.30	0.28	0.26
町田市	0.32	0.30	0.24	0.24	0.22
日野市	0.30	0.27	0.28	0.23	0.21
多摩市	0.32	0.27	0.26	0.22	0.17
稲城市	0.34	0.29	0.17	0.15	0.16

表 3

	H28	H29	H30	R1	R2
八王子市	12.2%	11.2%	9.7%	9.5%	9.3%
町田市	11.0%	10.5%	7.5%	8.1%	8.4%
日野市	9.6%	9.6%	9.3%	7.9%	6.9%
多摩市	10.9%	9.1%	8.8%	6.6%	5.6%
稲城市	11.4%	9.9%	6.4%	6.0%	5.9%

表 4

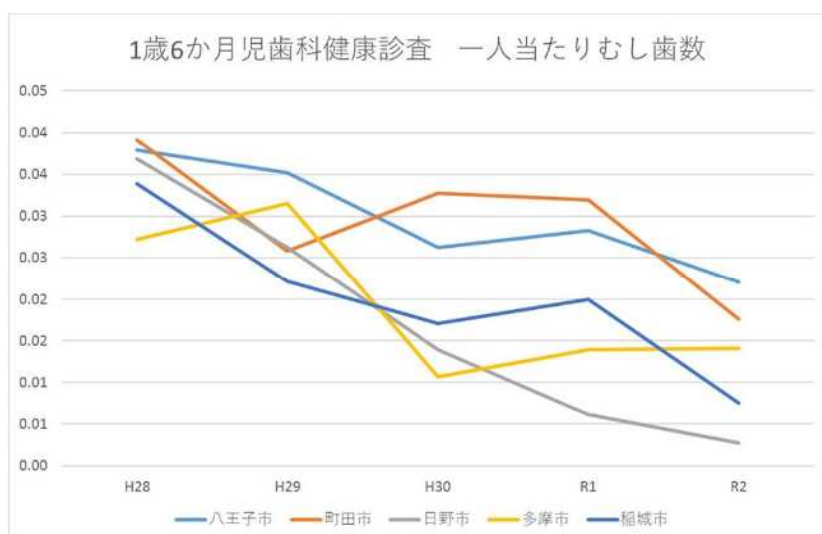


図 1

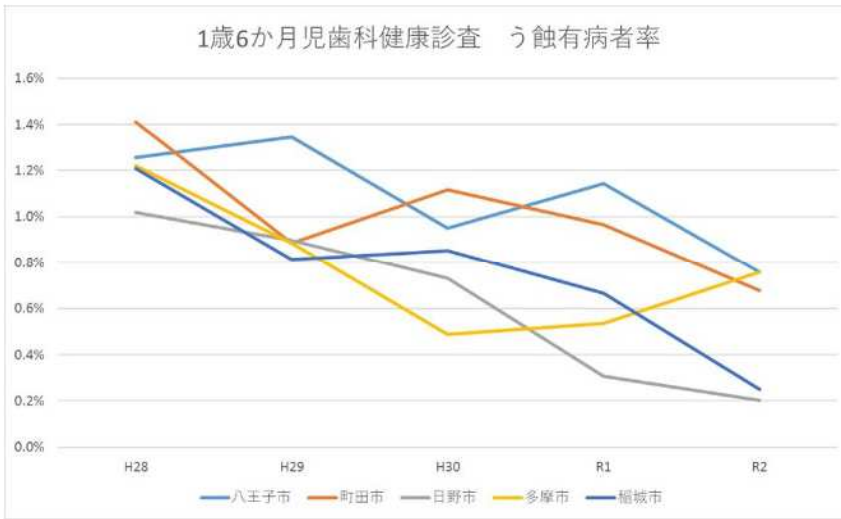


図 2



図 3

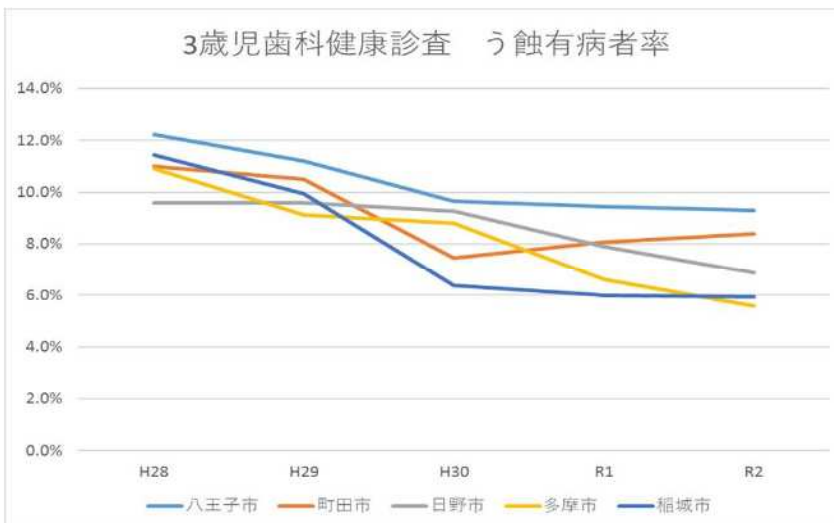


図 4

#### 4 考察

今回は、過去5年間の一人当たりむし歯数、う蝕有病者率を比較することで口腔内への影響を確認したが、各市で細かな差はあるものの令和2年のみ大きく増加しているという状況は確認出来ず、外出自粛の影響は確認できなかった。

受診控えについては、小山ら(2)(3)、岩崎ら(4)の先行論文により約20%~50%の患者が受診控えをしたとされている。これらの研究は高校生、成人を対象に行っており、幼児での結果は報告されていなかった。一方令和2年の1歳6か月児歯科健康診査及び3歳児歯科健康診査の受診率に大きな変化はなく、各幼稚園保育所、保護者等の日々の口腔ケアやダラダラ食いの防止や各市保健センターでの健康教育の充実により口腔内状況に大きな影響がなかったと考えられる。う蝕予防にフッ化物の応用が重要であることは言うまでもないが、このような新興感染症流行下でも平時の健康教育を充実させ幼稚園保育所職員や保護者へ正しい知識を与えることにより短期間での口腔衛生状況の増悪を防ぐことが可能と考えられる。

#### 参考文献

- (1) 東京の歯科保健—東京都歯科保健医療関係資料集—(平成29年~令和3年10月)  
東京都福祉保健局医療政策部医療政策課発行
- (2) 小山史穂子、地域住民における緊急事態宣言期間の診療科別医療機関受診控えと受診困難状況、日本公衆衛生雑誌 J-STAGE 早期公開 doi:10.11236/jph.22-021
- (3) 小山史穂子、COVID-19 感染拡大下における歯科受診行動—どんな人が歯科受診に不安を抱いているのか—、口腔衛生会誌 70:168-174, 2020
- (4) 岩崎正則、高校生における新型コロナウイルス感染症流行下の定期的歯科受診の状況と口腔の状態の変化:学校健康診断データを用いた検討、日本公衆衛生雑誌 J-STAGE 早期公開 doi:10.11236/jph.21-034